

日中韓東アジア農業・農村シンポジウム（於中国・瀋陽）参加報告

2006年8月9日、中国遼寧省瀋陽市において、日本地域政策学会が参画する、日中韓国際フォーラムの「東アジア農業・農村シンポジウム」が実施された。今回は、遼寧省側からの突然の招聘ということもあり、学会からは、学会長、理事等の招聘を受けたメンバーを中心に参加することにした。

前日の歓迎祝宴では、日本側代表团と合流し、遼寧省側の熱烈な歓迎を受けた。日本地域政策学会からは、大宮地域政策学部長・学会常任理事が日本側全代表団の紹介役を務め、中心的な役割を果たした。

当日の大会会場は、教職員数3万人を擁する瀋陽農業大学であった。瀋陽農業大学は、ここ数年で急速に大規模化してきたのだが、現在は中国における大学再編の渦中にあり、近い将来、周辺大学3大学と合併し、総合大学の中心キャンパスとして再編されるとの話もある。単なるキャンパスというよりは、宿舍、食堂、銀行、スポーツ施設など生活環境の整備された3万人規模の「大学町」が存在し、そこで大会が開かれたというのがイメージとして近いかもしれない。

開催日午前中、瀋陽農業大学への移動途中に、農業科学院に立ち寄り、中国における農業技術を見学することができた。また、シンポジウムでは、長谷川秀男前学会長が日本側代表として、開幕式の挨拶をし、大泉一貫新学会長が「日本における農村地域政策の概要と課題」についての報告を行った。日本地域政策学会関係者としては他に、韓国側として招聘された霊山大学李良姫氏が「韓国における農村観光の現状と課題」を報告した。当学会からは、2名の会員（宋丹瑛氏、倪鏡氏）がシンポジウムの通訳者を務め、重責を担った。

シンポジウムでは、日中韓3カ国の地域政策が活発に議論され、東アジア規模での地域政策の比較は、発展段階の異なる国々ではあるが、それぞれの地域課題に対処するモデルの客観化と相対化を可能にさせるものとして、大いに示唆に富むものであることが理解できた。今後は、さらに多くの分野において、地域政策の比較・検討が必要であろう。

翌10日には、瀋陽農業大学において、張校長、国際交流所長との間で、大学の地域貢献のあり方や研究推進体制に関する質疑応答や意見交換を行い、日中間の交流・連携を深めることができた

（文責 増田）